

# 都の新エンターテインメント事業始動

## ●自然活かした新エンターテインメント事業

東京は世界有数の大都市でありながら、多摩・島しょに豊かな自然を有しています。そんな都民の財産ともいえる自然を十二分に活用し、注目度や集客力を高めようと、都はこのたび、新たな体験型エンターテインメント創出事業「Nature Tokyo Experience(ネイチャー・トウキョウ・エクスペリエンス)」を開始しました。

今回は、同事業の概要やモデルプロジェクトなどについてみていきます。

## ●国内外に新たな余暇の過ごし方を発信

「Nature Tokyo Experience」は、都が掲げる「2020年に向けた実行プラン」の「スマート シティ 政策の柱4 国際金融・経済都市」に係る事業で、多摩・島しょの自然を活用した新しい余暇の過ごし方を提案し、先進的な取組を広めるものです。

また、このような取組が広がることで、これまで多摩・島しょに親しみのなかった国際ビジネスパーソン等の余暇も充実し、世界をリードする国際金融・経済都市の実現にもつながるとのことです。

事業の始動に先駆け、東京都が委託した事業プロモーター(株式会社博報堂)が、多摩・島しょの自然等の地域リソースを活用した新たな体験型エンターテインメントを募集し、モデルとなる3つのプロジェクトが選定されています。今後は、事業プロモーターの広報支援等を受けながら各プロジェクトが多摩・島しょで展開される予定です。

## ●話題のレジャーを取り入れたプロジェクト

選定されたプロジェクトは次の通りです。

### 【奥多摩に誕生する魅惑的なアウトドアフィールド】

〈代表事業者名〉(株)NOX Intervillage(ノックスインタービレッジ)／「CIRCUS OUTDOOR」(サーカスアウトドア)のブランド名で、人気のグランピング(※1)イベ

ントを全国で実施する企業。〈事業概要〉奥多摩湖を眺望できる場所に、「CIRCUS OUTDOOR」初の常設グランピング場を設置。／テーマパークのような物販施設も併設し、魅惑的なアウトドアフィールドを実現。

### 【多摩と島をつなぐガストロノミーリズム】

〈代表事業者名〉(株)USP ジャパン／外国人観光客誘致等のコンサルティングを行う企業。〈事業概要〉調布を基点に、空輸された朝採れ食材を使用した調理体験、生産者等によるトークセッションを開催。／これらのイベントを通じて関心を持った人が、新島、神津島において、収穫体験や地元の人との交流を楽しむ「ガストロノミーリズム」を実施。

### 【八丈島グランピング&コンシェルジュ】

〈代表事業者名〉(株)ASOBIBA(アソビバ)／サバイバルゲームなど、大人が楽しめるトレンドアクティビティを提案する企業。〈事業概要〉八丈島を代表するリゾートホテル「リードパークリゾート八丈島」の敷地で、1日1組限定の海風を感じるグランピングを提供。／スマホのチャット機能で、島にある様々なネイチャーアクティビティや、穴場のスポットなどを24時間紹介する「コンシェルジュサービス」を展開。

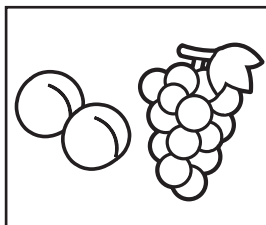
「Nature Tokyo Experience」の情報は、特設ホームページ(<http://www.naturetokyoexperience.com/>)に掲載されている他、今年度末に、民間事業者や区市町村等を対象にシンポジウムを開催するなど、モデル事業の成果を発表し、事業の普及が図られます。なお、同事業についてのお問い合わせは、政策企画局調整部渉外課(03-5388-2165)までお願いします。

(※1)グラマラス(魅力的な)とキャンピング(キャンプ)を組み合わせた造語で、キャンプ道具の準備なしに、自然環境の中でホテル並みの豪華で快適なサービスが受けられる、新しいキャンプスタイル。

## 東京今昔物語476

## 江戸では貴重だった「水菓子」

夏の果物が美味しい8月。今では、旬を迎えたみずみずしい桃やぶどうが店先に並びますが、かつて果物は嗜好品として厳しく制限されていました。日常的に食べるようになったのは江戸時代末期。当時、果物は「水菓子」と呼ばれており、成子(現在の新宿区西新宿)の農家が栽培し始めたマクワウリ



を青梅街道や甲州街道で売ったところ、旅人などに喜ばれ名物「成子瓜」として好まれたそうです。また、葛西の新川付近(現在の江戸川区)にも「新川梨」が栄えましたが、明治の終わりから大正時代にかけて衰退。今では江戸川の浄興寺に有形文化財として「新川梨の碑」が残されています。